

令和3年度 評価結果【学校関係者評価からの意見】

【自己評価からの課題】

(1)地域住民に様々な得意分野を持っている人がいるので、様々な場面につながるとよい。
 (2)センター的機能は、相談件数の増加よりも持続可能になるよう精選して行えるようにする。
 (3)プロジェクトは、アート（自由な活動）ではなく、アウトプットしていくことが大切。
 (4)避難訓練（引き渡し訓練）は方法に改善の必要があるのではないか。
 (5)PTA活動の参加者が少ないのは課題ではないか。
 (6)災害時の医療的ケア児の子供の使う電源や水の確保が必要である。
 (7)社会から必要とされている実感をもつ生徒が増えると、人にやさしい社会になっていくのではないか。
 (8)ICTの取り組みは素晴らしいものがある。今後も本支援をしていきたい。

(1)人とかかわる、社会とかかわることがさらに必要である
 (2)子供の思いを大切に自己決定、自己選択の大切さを感じる
 (3)本校の子供たちにとって、現在の教育課程での学びの苦しさがある
 (4)病棟児・医療的ケア児の進路面での課題がある
 (5)重度重複の子供たちの気持ちを大切に将来に向けての取組が必要
 (6)ステージを超える時の進路支援の課題や適性との相違がみられる
 (7)コロナ禍で、保護者同士のつながりづくりが難しい
 (8)プロジェクト実施による分掌等との業務の重なりや負担増があり、目的があいまいなまま実施された面がある
 (9)生徒の言葉の力や表現力、教師の教科の指導面に課題がある
 (10)教職員の研修の希望や、専門性を伝えたいニーズがある
 (11)分掌部長、チーフ、プロジェクトリーダー等の業務の重なりがある



次年度に向けての改善方策

学校教育目標

病弱虚弱による
 さまざまな困難を改善・克服し、
 心豊かに生きる児童生徒を育てる

人権尊重の精神を基盤に、
 自己を大切に、
 他者を思いやる心を持つ
 児童生徒を育てる

自己の能力の可能性を伸ばし、
 自立や社会参加をめざす
 児童生徒を育てる

めざす児童生徒像

①自分を知る 心豊かな人 ②人とつながることを大切に人 ③考え創り出す人

①めざす児童生徒像に係る 学校経営方針

①-①②③全教育活動の柱に「キャリア教育」を位置づけ、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を充実させる
 「自己理解・自己管理能力」「人間関係・社会形成能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」をもとに
 キャリア発達を促す。

①-①様々な視点から自己理解を深め、豊かな心を育む
 1) 変更や修正が可能な答えを共同で見つける経験をとおして、豊かな心を育む。
 2) 合意形成の過程を経て自己決定することとおして、自己理解を深める。

①-②児童生徒の社会とのつながりをつくり出す
 1) 新学習指導要領に対応した「社会に開かれた教育課程」を目指し、自立と社会参加の基盤となる学力や社会が求める力を育てる教育課程の編成に努める。
 2) 児童生徒が安心してさまざまな社会につながる機会を増やし、自分の感覚をとおして学び、社会から必要とされる実感をもつなど、社会の一員としての成長を促す。

①-③自己決定の力と対話による創造をつくり出す
 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「生きて働く知識・技能」を活用し「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」で「学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性」を児童生徒に育成する取り組みを行う。

②働き方等に係る 学校経営方針

②-①②③支える人材が力を発揮する環境をつくり出す
 1) 校内、地域とつながり、アイデアを実践、新たな案を生む循環をつくり出す。
 2) 次なる方向を探る、よりよい修正に向かう対話により、課題と効果を検証することで業務改善をすすめる
 3) 事務部と連携し、未来に向かう取り組みへの予算配分を行う。

②-①考える過程で変更や修正が可能な答えを共同で見つけていく、一人一人を豊かに大切にする職場に
 1) 合理的配慮の合意形成の考え方「今できることは何か（実施）（代替案）」「時間をかけて検討することは何か」を取り入れ、「みんな（組織）で考える」ことで「納得のアイデア」を一緒に作り出す。

②-②育ち合い、支え合いのチームをつくり出す
 1) 様々なチームが連動、連携、協力しながら、一人一人の児童生徒への支援や指導、業務を行っていく。
 2) それぞれのニーズに応じた研修を企画し、病弱教育についての専門性向上を図るための研究の方向性を探る。

②-③意義を明確に次のアクションを生み出す話し合いをつくり出す
 1) 対話から案を生み出す運営を工夫する
 (1)会議の目的を「報告」「（承認を得ることを目的とした）審議」「（合意形成を目的とした）審議」に分け、話し合いを整理する。
 (2)合意形成を目的とした審議では「一人一人がもつ知識、アイデア」を「表現」「対話」し、「組み合わせる、代替案を作る、新しいアイデアを生む」など、「それを動かすチーム」に託せるよう対話を進める。
 2) 教材や評価の検討など、教科会の充実をはかり、授業づくりをすすめる。